作物名：なし
病害虫名：ナシキジラミ（学名：*Cacopsylla pyrisuga*）

写真1　ナシキジラミの被害葉（葉が委縮する）

写真2　なし葉に寄生したナシキジラミ幼虫

1　被害の特徴と診断のポイント

- 被害は、主に幼虫による。
- 葉、花（果）そう、新梢などに、幼虫が寄生して吸汁被害を引き起こす。
- 葉は、吸汁されて萎縮する。
- 花（果）そうは、吸汁されて生育不良となる。寄生が多いと開花不能となり、着果しない。
- 新梢は、伸長や肥大が悪くなって湾曲する。
- 寄生部は、幼虫の排せつ物（甘露）でねばねばし、すす病が発生して黒く汚染される。また、アリ類が集まってくる。

2　生態

- 年1回発生で、成虫越冬する。
- なしの発芽期頃になし樹に飛来し、新芽、若葉、花蕾などに多数（100粒以上）の卵を産卵する。
- 産卵後30～40日程度で成虫になるため、宮城県における新成虫の発生時期は5月半ば頃となる。
- 新成虫は、羽化後間もなく、針葉樹などの他植物に移動する。

3　防除方法

- 発生初期に、捕殺などの物理的防除を行う。
- 成虫が飛来するなし発芽期から5月末頃に、アブラムシ類などを対象とした殺虫剤散布を行っているほ場では、ナシキジラミの発生はあまりみられない。
- 発生初期に、ナシキジラミに登録のある殺虫剤を散布する。
- 近年、ナシキジラミ成虫飛来時期に、BT剤やIGR剤などの選択性の高い殺虫剤を使用しているほ場や、訪花昆虫保護のために殺虫剤散布を行わないほ場では、発生が目立ってきている。

4　出典

(1) 参考文献

- 農業総覧原色病害虫診断防除編第6巻（農山漁村文化協会）
- インターネット版　日本農業害虫大事典（全国農村教育協会）
- 井上（2004）「キジラミ類の分類と生態（2）―生態および害虫種―」（植物防疫58：29-32）

(2) 写真

- 宮城県美里農業改良普及センター撮影
- 宮城県農業･園芸総合研究所園芸栽培部果樹チーム撮影

写真3 なし果そうに寄生したナシキジラミ幼虫

写真4 なし花そうに寄生したナシキジラミ幼虫

（令和8年1月作成）